

日本マクロエンジニアリング学会年次研究大会開会挨拶

会長 藤田慶喜

本日はご多忙の中、日本マクロエンジニアリング学会年次研究大会にご参加賜り、眞に有難く感謝申し上げます。

目下世界全体は未曾有の経済危機に襲われ、あらゆる場所でその実態が報告されています。その底がいつ、どこに来るのか、が大きな関心事となっています。大きな経済変動ですから、当該部門に居る方、責任ある立場の方は大変なご心労であろうと拝察致します。

一部の経済学者の間では、周期的に来る経済循環の一部と言う方が居ます。一方ではこれにより産業変換がなされ、新しい産業が創設され、今世紀の主流となると述べる方も居られます。我々が今の経済現象をどう捉え、どう対処し、近未来を構築することが出来るか、残念ながら未だ処方箋を持ち合わせていません。

ここ 500 年の歴史を眺めると、科学技術の発展が、画期的な発明や発見が時代の閉塞を打ち破り、人類の生活を大きく変えてきています。ルネッサンスの3大発明である活版印刷、羅針盤、火薬やその後の水力、蒸気パワーなどがそれにあたります。その後の電信電話、自動車、原子力、コンピューター、ICT など後続の技術が社会変革を促しました。覇権国も 16 世紀のポルトガル・スペイン、17 世紀のオランダ、18-19 世紀の英国フランス、20 世紀の米国と変わってきました。最近では中国、インド、ロシア、ブラジルなどの進出で、単独の覇権国が君臨する一極集中から複数の地域に権力が分散する「多極化」や「無極化」の時代に突入するという国際学者の見解も出てきています。又オバマ新大統領は「グリーン・ニューディール政策の一環として太陽・風・大地を使って自動車を動かし、工場を稼働させる」と言っています。将に産業構造の大転換を予見させる時代に入ってきました。

我々日本マクロエンジニアリング学会はその言葉に表されているように、全ての社会事象を「より広範囲な視野、知見を活用し、最適解を得る為に活動をする研究開発集団」であります。本日は複数の分科会を設定し、その課題解決への手がかりを得る為の検討を行います。

課題先進国である日本に住み生活をする我々が、現存する課題により回答を構築することが出来れば、その成果は必ずや、他国に参考となるに違いありません。と同時に二宮尊徳が「道徳無き経済は犯罪であり、経済無き道徳は寝言である。」と言っております通り、今後の経済社会の発展には、道徳倫理感が無ければならないことは論を俟ちません。幸い数年前にはびこった禿鷹ファンドなどが陰を潜めたのはそのよい傾向と思っています。

以上述べましたように、昨今の社会環境は変化が激しく、影響が深刻になっています。本日の研究会がそれら課題解決への一助となればと念じております。

皆様の積極的なご貢献を期待して、私の開会のご挨拶と致します。有難う御座いました。